

# 平成18年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第5号（7月後半～8月前半）

平成18年7月18日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	やや少ない～少ない		
		穂いもち	やや少ない		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		白葉枯病	やや多い		
		ニカメイチュウ	少ない		
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い		
		セジロウンカ	平年並～やや多い		
		トビイロウンカ	平年並～やや多い		
		コブノメイガ	平年並		
		果樹	ナシ	斑点米カメムシ類	やや多い～多い
				黒斑病	平年並～やや多い
				黒星病	多い
				シンクイムシ類	やや多い
ハダニ類	少ない				
カキ	カキ	アブラムシ類	やや少ない		
		うどんこ病	少ない		
		チャノドアザミマ	やや少ない		
野菜	果樹全般	カメムシ類	やや多い		
	イチゴ	うどんこ病	平年並		

中国地方1か月予報（7月15日～8月14日・広島地方气象台7月14日発表）

向こう1か月の気温は平年並が高く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

防除所ではいもち病、ウンカ類、果樹カメムシなどの最新情報（別添）をホームページ上に掲載しています。

アクセスはこちら <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane/>

#### A. 普通作物

##### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや少ない～少ない

予報の根拠

全般発生期は7月第3半旬と平年に比べて遅い（平年6月第6半旬）。

7月14日現在、巡回調査地点における発病株率は0.4%と平年に比べて少ない（平年発病株率37.3%）。

感染好適日は7月10日以降、のべ1地点のみと出現頻度は低い。

向こう1か月の気象は、気温は平年並みが高く、降水量は平年並みが多いと予想されており、本病の発生にはやや助長的である。

##### (2) 穂いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

伝染源となる葉いもちの発生量はやや少ない～少ないと予想される。  
向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 紋枯病

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

7月14日現在、巡回調査地点における発生圃場率は31.4%（平年37.1%）、  
発病株率は4.3%（平年5.6%）とほぼ平年並みである。  
向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県下常習発生地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

7月14日現在、発生を認めていない。  
5月以降の積算降水量は平年に比べてやや多い。  
向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(5) ニカメイチュウ（第2世代）

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 少ない

予報の根拠

予察灯、フェロモントラップにおける越冬世代成虫の誘殺数は平年に比べて少  
ない。  
7月中旬の巡回調査では、発生圃場率は0%（平年6.1%）、被害株率は0%（平  
年0.4%）で発生量は平年に比べて少ない。  
向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

7月中旬の巡回調査では、捕獲数は32.7頭（平年29.2頭/50株）、発生圃場率  
は100%（平年74%）で発生量はほぼ平年並みである。  
予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。  
向こう1か月の気温は、本種の発生にやや助長的である。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

予察灯への初飛来は、浜田市で6月16日に観察された。それ以降まとまった飛  
来は6月25日、7月4～5日に認められた。現在までの誘殺数は平年並みである。  
7月中旬の巡回調査では、成虫が58.2頭（平年81.9頭/50株）、圃場率は100%  
（平年82%）で平年並みである。  
向こう1か月の気温は、本種の発生にやや助長的である。梅雨明けまでは多飛  
来に注意が必要である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

予察灯への飛来は、出雲市で7月6日に観察された。  
7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。  
向こう1か月の気温は、本種の発生にやや助長的である。梅雨明けまでは多飛  
来に注意が必要である。

(9) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

予察灯への初飛来は、7月13日までに認められない。

7月中旬の巡回調査では、成虫が0.1頭（平年0.2頭/50株）、圃場率は9%（平年18%）で平年並みである。

向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

予察灯でのアカスジカスミカメの誘殺量は平年に比べてやや多い(平年比145%)。

向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

7月中旬の調査では、発生量は平年並みである。

向こう1か月の気象は平年並か高く、降水量は平年並みか多いと予想されており、本病の発生にはやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

7月中旬の発生量は平年に比べて多い。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

ナシヒメシンクイ第1世代雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや早く、総誘殺数はやや多い。

7月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

6月巡回調査では寄生葉率3.4%（平年12.4%）で少ない。

7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

6月巡回調査では寄生梢率11.1%（平年25.9%）でやや少ない。

7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

- 発生量 少ない  
予報の根拠  
7月中旬の巡回調査では発生は認められなかった。  
向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並みか多いと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (2) チャノキイロアザミウマ  
予報内容  
発生地方 県下カキ栽培地帯  
発生量 やや少ない  
予報の根拠  
露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。  
7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

4) 果樹全般(カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

- 予報内容  
発生地方 県下果樹栽培地帯  
発生量 やや多い  
予報の根拠  
露地圃場に設置したトラップでの誘殺数は平年に比べてやや多い。  
7月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。  
7月中旬の巡回調査で被害果を確認している。

C. 野菜

1) イチゴ

(1) うどんこ病

- 予報内容  
発生地方 県下全域(苗)  
発生量 平年並  
予報の根拠  
6月下旬の調査では、発生量は平年並みである。  
向こう1か月の気象は、気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか多いと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

**島根県病害虫防除所**

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>